

参加者のコメント集

—— 原発推進・原発反対・脱原発依存・卒原発・・・ その理由は？ ——

■ 1. どの立場でもありません。それぞれの立場がどういうものなのか、私にはわかりません。まずそれを知るために、参加を希望します。どれかの立場になるのは、その後です。

■ 2. 原発反対。今の現実を見てみると、とても賛成とは言えない状態だからです。でも、原発の利点もあり国際社会の中で、全く頼らずに生きていけるか不安に思っています。

■ 3. 「脱原発」への具体的な手順および必要期間、経費等を知りたい。なぜなら、「脱原発」に対する私たちの覚悟も必要だから。

■ 4. 卒原発を目指して次世代の新エネルギーの展望を無理のない視点で考えることが出来る様になった。理想論や絵空事、超未来の雲を掴むような話ではなく、現実的に実現可能な方法論を論じたいです。

■ 5. 原子力発電の事のみでなく、中部のエネルギー供給についての検討（自然エネルギー利用）をしていきたいと思えます。

■ 6. 「異なる立場の方々が 意見を言い易い環境」を参加者が自覚・確認してワークショップが進んでいくことを期待しています。

■ 7. 私の考えはやはり、「脱原発」であり、「卒原発」です。

この地震が多い日本列島、かつ、断層ばかりある日本列島に原発がある、ということそのものが間違っている。

今回の福島第一原発の事故で「想定外だ、予想不可能だった」と、第一回目の会議で仰っていた記憶がありますが、それは「言い訳にすぎません」。

事故が起こる何年も前から原発そのものの危険は叫ばれてきたはず。

そして、私たちも、その原発から恩恵を得て「しまった」者たちとして反省の意味も込めて、今からでも遅くない。「放射能ガレキを愛知県に持ち込む可能性が出てしまった」ことに対する反対も述べつつ、県全体を上げて、中部全体を上げて、国に対して声を上げて頂きたいと思えます。

■ 8. 脱原発依存

さまざまな問題を技術や管理体制の見直し等で解決してきた人類の歴史から見て、原発をより安全にすることは可能だと思います。しかし、原発の燃料も数十年で枯渇するといわれており、遅かれ早かれ自然エネルギー等、火力・水力・原子力以外の代替エネルギーの開発が必要になるのであれば、原子力発電所の安全強化に人と時間と予算を使うより、自然エネルギー等の開発に人と時間と予算を使った方が効率的だと思います。

■ 9. 基本的には原発反対ですが、原発即時停止の場合の経済的な影響が良く分からないので卒原発との間で揺れています。

基本的に原発反対の理由について

- ①危機管理は、起きる確率の低いことでも、もし起きたらという想定をしどのように対処すれば危機を最小化できるか事前に検討し、対処することと思うが、もし起きたらという想定をするだけで騒ぎになる日本では、原発のように事故が起きると一過性でない影響が大きすぎるものはやらない方が良く思える。
- ②日本列島は海溝型巨大地震、直下型大地震ともいつ起きても不思議のない地域であるので、それなりの想定をし、きちんと対処をした積もりでも、人間のやることでそれこそ想定外がないとは言えない。
- ③使用済み核燃料の最終処分場が決まる見通しもなく、原発を使い続ければ処分できない使用済み核燃料が増えていくだけ。せめてすぐに増加をとめるべき。
- ④あれだけの事故から1年過ぎても、原子力規制の組織形態も政争の具にし、与野党で合意のない政治状況では今後もまともな原子力規制・安全ができるとは思えない。
- ⑤上記のことと連動するのだろうが、事故調の最終報告が出ていないとはいえ、安全基準の見直しの動きもろくに無い中での再稼働へ向けた動きを見ると、安全を真剣に考えているとは思えない。
- ⑥エネルギー需要の大きな部分を再生可能エネルギーでまかなうには時間がかかるが、以下を推進すれば原発がなくてもなんとかなる可能性ありと思う。
- ・省エネ、節電：家庭もだが特に企業(電力料金が値上げされることへの対応策でもある)
また、まちづくりとして熱電併給システムを構築し、全体のエネルギー効率をあげることも必要
 - ・発送電分離：再生可能エネルギーの普及、電力料金の低下に効果的と思われる
- ⑦再生可能エネルギーのポテンシャルはあると思うので時間と的確な政策があれば原発なしでもやれると思う。
- しかし、(温暖化の問題も考えながら) 需要をまかなうにはどれくらい時間がかかるか、コストがどうなるかが問題。
- 今まで原発立地にかけてきたお金を再生可能エネルギーにかけるとして見通しをたてるべき。
- 再生可能エネルギーで需要をまかなえないうちは原子力以外の化石燃料の高効率利用も併用しながらなんとかやっていく方法を考えるべき
- (再生可能エネルギーも最初は補助金、全量買い取りなどの政策が必要としても最終的には経済的に成り立たないとだめだと思うので、技術的な面のみではなく、コスト、再生可能エネルギービジネスの展望、雇用創出など経済的な面も十分に検討すべき)

■10. 原発比率一定水準の維持

～理由～

- エネルギー自給率4%の日本がやるべきことは、エネルギー源の多様化・産出国の分散。一部のエネルギー源が途絶された場合でも、量的かつ質的に代替可能なエネルギーを常に一定割合確保しリスクに備えることが重要。これは日本のセキュリティ上きわめて重要な問題。
- セキュリティ上の問題に止まらず、量的かつ質的に代替可能なエネルギー源を複数確保することにより、初めて産出国との「交渉」が可能になる。現状、電力供給の点で、天然ガスだけに依存している日本が、どうやって安価なガスを調達できるのでしょうか？
- 再生可能エネルギーは長期的な目標であることに変わりはない。ただし、短期的には、原子力あるいは石炭いずれかの維持・拡大により、少なくとも石油とガスに依存せず対応できる力を日本は備えておくことが重要。

■11. 脱原発依存に賛成。

生活者として原発なきエネルギー利用のベストミックスを夢見る。決してエネルギー供給

者のエネルギー発電のベストミックス論に与して矮小化してはならない。オールジャパン、全国民が参画と自己責任で日本のエネルギーセキュリティ問題を考えたい。

理由①：原発の存在は中部東海のこの地に住む生活者として生死にかかわる重大な問題である。北陸や静岡にある原発はいつ事故が発生するかわからない脅威、リスクがある。日々安心して生活できない。原発なきエネルギーベストミックスはつらいけどずるずると先延ばしできない。決意あれば可能な先進国日本である。原発なきエネルギーセキュリティ政策はまじめに取り組めば可能である。自給自足の心構えで。ゆでガエルから脱出せよ。日本人。

理由②：形ある物、原発のハード、安全運転管理のソフトは必ずいつかは事故を起こす。信頼性100%はあり得ない。また、事故発生後の安全性がゼロといえるほど低いことが大問題である。システムの回復に数十年もかかる。その間、個人や家庭、企業など社会の形を劣化させ回復は容易でない。経済や社会を壊す。

理由③：原発事故により発生する放射能汚染物質は放射線を出す。自然放射線とは比較にならないほど強大である。長期にわたり汚染し、内部被ばくを起こす。最終処理する技術を人類は持っていない。これから真剣に研究してほしい。原発推進のためでなく今までに貯めた大量の使用済み核燃料や廃棄原発の最終処理の技術開発を。ほとんどの被爆者を治療できない。大量の人が死ぬしかない。後遺症や将来にわたり悪性遺伝の可能性は大きい。日本列島にある原発すべてについて言える。近隣諸国を含む世界各国への迷惑も大きい。そんなものを世界へ輸出することの責任をどうとれるだろうか。

理由④：原子力発電など原子力利用技術の開発について利便性など経済性が優先特化している。専門家に知見や情報が独占されている。その危険性や安全性については情報公開がされていない。不都合な事実や仮説が隠されている。ガバナンスが確立されていない上に、科学者の研究エゴのためや国の政策実現、企業の利益のためにマスコミなども手足、口を縛られている。原発の恐ろしさを大多数の市民は知らされていない。主人公になれなくて、さまよえる羊の待遇に置かれている。

理由⑤：エネルギーセキュリティは供給者側の発想から需要者側の発想の時代を迎えている。需要者ニーズから配電サービス、発電、燃料資源発掘、地球環境・資源の持続性の共通理解の循環の輪が創られるべき。

理由⑥：エネルギーは自給自足。地産地消であるべき。農業や食料と同じである。ロジステックスの無駄やCO₂の発生など無駄が多い。行き過ぎた大量生産の工業化による効率だけでなく、フレキシブルな回復力、保全性のあるエネルギーの多様性、地域性、自然循環性が安全安心なインフラとして大事。

理由⑦：アンフェアな原子力コストや電力コストの見積算定基準を見直すべきである。原発絶対必要の目的のために作られた総原価主義など経済合理性をゆがめている。自然環境と社会の持続性なき効率一辺倒の経済性を追求する個人や組織は相当のコストを負担すべきである。現在は化石燃料など使ったもん勝ちの不公平な経済学である。目に見えないインタンジブルなコストを見逃している。

理由⑧：エネルギーセキュリティから行き過ぎた経済を考え直したい。エネルギーの自助・共助、そして公助を考えたい。電力の専門家に任せる時代は終わった。市民が大いにエネルギーについて議論して自己責任を持つべきである。省エネは他人事ではない。省エネは個人や社会の常識、倫理として主流化すべし。マナーの悪い人には禁煙のように

啓発すべし。

■12. 安全・安心であることが大前提であるが、現状では、原子力発電は当面一定の割合で必要ではないか。

エネルギーの供給源、人類の歴史の中で技術進歩によって変化してきた。

太陽（明かり→太陽熱利用→太陽光発電）、風力（風車、帆船→風力発電）、水力（水車→水力発電、揚水発電）、薪、ロウソク、植物油、石炭（在来型→環境対策型、IGCC）、石油、天然ガス（在来型→コンバインド）、原子力などなど・・・

今後も技術進歩や経済社会の状況、暮らしの変化に応じて変化、見直されていくものと考えている。

電力需給の変化に対応できるほどの電気を蓄電池にためておくことは、現状では膨大な設備、敷地、コストが必要であり現実的ではない。お日様任せ、風任せにはできないので、安定的にエネルギーを供給できる仕組みが必要である。

エネルギーセキュリティを確保し再びオイルショックに巻き込まれないこと、将来にわたってエネルギーが安定供給できることを考えると、化石燃料以外で安定的にエネルギー供給できるベース電源は必要ではないかと考える。温暖化問題への対応や化石燃料・石油化学製品原料としての利便性が高く有用な石油、石炭、天然ガスを将来世代に残すことも考えなくてはいけない。

電気料金の影響は家庭より工場の方が影響が大きい。低廉な電気を安定供給しないと日本の産業が海外へ出てしまうことも考えられる。化石燃料比率が増え、化石燃料の輸入増による電気料金の高騰を抑えなければいけない。

原子力発電もさらなる技術の進歩で火力発電と同等以上の安全性が確保されるのではないか。リスクとベネフィットを理解して方向性を出す必要がある。

■13. 基本的には原発反対です。脱原発を進めるべきだと思っています。

「電力が足りてる」とは思っていません。昨夏は節電令と自主的な節電があって乗り切りましたが、これからも毎年そうしていけば足りるかもしれません。

でもそれでは日本経済になんらかのブレーキがかかるでしょう。

脱原発は、原発停止か、日本経済に（ある程度の）ブレーキか、の両面を見て、国民が判断して決めることだと思います。

そして、廃炉について。廃炉には数十年かかります。そして原発をやめても、使用済み核燃料・放射性廃棄物の管理はやめるわけにはいきません。

既にひとたび原発というものに足を踏み込んでしまった我々は放射性廃棄物から逃れることはできません。

「どうせ廃棄物から逃れることができないなら、原発を稼働し続けた方が」という議論も今後出てくることでしょう。それも国民が考え判断して決めなければなりません。

個人的には、絶対にながなんでも脱原発とは思っていません。

事故が起こるようならやめろ、と思います。

安全が確保できるなら、ありかなという思いもわずかにあります。もっともその場合は、東京に原発を作れるくらい安全に自信がつかないないにだめですけどね。

”もし事故があると怖いので、

東京では車は使わせない、東京では新幹線は走らせない”なんてことをしているのと一緒ですから。私はこんな風に考えています。

■14. [テーマ]

脱原発依存に向けた原子力利用技術の向上蓄積

○原発を停止、廃炉しても使用済み核燃料を無害化する技術開発を進めなければならない。

- 再生可能エネルギーの機器製造に必要なエネルギーの調達（電力は必要不可欠）。
- CO₂排出量が最も多い電力供給問題の解決策（脱火力依存）を考える必要がある。
- 隣国の中国・韓国・台湾の原発開発は止められない。黄砂同様に原発事故の影響は直接的で、その収束技術の開発が必要不可欠。等々

■15. 電気を湯水のごとく使い、不必要な便利さを享受してきた人間が、地球（自然）に対して行ったことのツケが、今、あちこちで起きていると思う。
次の世代に、手遅れにならないうちに、共に生きる地球をつないでいけるように、ささやかでも、今、できることをしていきたい。まず、脱原発から。

■16. 原発には反対的な立場ですが、今言われている放射能や放射性物質についての理解は誤っているものだと思います。放射性物質も放射線を出していない段階までくると服で遮蔽できるはずです。福島を死の町という印象にしないためにも頑張りたいと思います。

■17. 私が原発、ならびに原子力技術に対して否定をするのは、放射性廃棄物の処理問題に尽きます。
放射性廃棄物の管理問題が解決していないまま再稼動を進めようとしている政府が理解できません。
そもそも管理問題など解決するはずがありません。ただ、保管しておくほかないのですし。だから、一刻も早く、処理済燃料が増えるのを防がなければならない、つまり原発を止めなければならないと考えます。

■18. 先日グリーンピースドイツからの報告を聞きました。ドイツでは 2011 年現在すでに電力の 20%を自然エネルギーで賄っており、2050 年には 80%にする国家目標を持っています。また、原発廃炉の過程では稼働中よりも雇用が拡大します。特に地元の雇用が増えます。廃炉期間は 17 年ですから、このうちに自然エネルギーへの産業転換を図れば立地自治体は生まれ変われます。

■19. 原発を継続利用することに反対です。
原子力発電を続けると、核のゴミがどんどん国内にたまってしまいます。
福島第二原発による汚染物ですら処理に困っているのに、原発を推進するというならば、45 基分の使用済み核燃料をどうするつもりなのか。
電力会社として推進するならば、説明する義務がある。

■20. 安全確保の不断の検証と技術開発の継続を前提として、原発による発電を一定程度維持すべきと思う。
人類はもう核に背を向けることができない。核の平和利用の最先端技術を開発し、世界に提供するのには、被爆と原発事故の経験を持つ日本の使命ではないか。その位の使命感を持つ政治家、研究者、オペレーターを輩出できずして、国際社会における日本の将来は拓けないのではないか。

■21. 原子力発電を推進すべきだと思います。
すべてのものにリスクは存在します。
人類の知恵で、原子力発電のリスクを許容できる程度に低くできると考えています。

■22. 卒原発です。私利私欲を捨てて、地球と子供たちの未来を語ろう！！

■23. 原発は安全性の目処がつくまで停止
(現段階では安全性に関してはまだ問題あり)

1.再生可能エネルギーの開発普及促進。

(製造原価の引き下げの技術開発が必要)

再生可能エネルギーの目処がつくまでは火力で代換え。

(メタンハイドレート等新燃料の獲得、火力の更なる効率アップの技術開発)

2. 原子力研究の強化(技術的には難しい課題多い)*使用済み燃料の処理方法

*放射性物質の半減期の短縮化

■24. 原発肯定、否定それぞれの立場での、下記のことについて専門家の意見を聞きたい
と思います。できれば東京や、中央の方でなく地元の講師で。(その方が自分の家族や地元
に責任を持って戴けるから)

①福島原発の事故原因と現状、今後

②地震予測と原発

③原子力発電の発電原価

④放射性廃棄物処理

■25. 卒原発しましょう！

原発の事故が人の手ではどうにもならないことはこの福島の事故で明白です。

すべてのことがらは、まず人の命(全生命)があつてのこと。

それを脅かす原発はいらないです。

■26. 卒原発

原発は世界で推進している国もありますが、日本においては、

- ・地震が多い
 - ・大国に囲まれている立地
 - ・今回の原発事故など含めたここ数十年の傾向をみると、情報が閉鎖的になりやすく、対策が取りづらい
 - ・少子傾向なので、ヨーロッパの人口密度並みになれば、再生エネルギーのパーセンテージをあげても良い
- …ことから、もとより原発には不向きだと思えます。

また原発そのものも、事故があれば

- ・被害が甚大でない
- ・放射性物質など数十年長期にわたる
(そして人体にも影響を与える)
- ・事故のときはすぐには対応できない(近づけない)

通常時でも原発の大きな問題として

- ・廃棄物処理が問題(数十年以上かかる)

という問題点があります。

また、どんなエネルギーにしても、日本は開発など本格参戦しておらず、日本企業および日本人がエネルギー開発に参戦するのが、楽しみでもあります。

エネルギーはかなり奥が深いですが、それもオープンに話せる場になると良いですね。

■27. 純粹に考えれば原発はなくしたい。

ただ自然エネルギーは量、コスト、信頼性に不安がある。さりとて過大に化石燃料に頼る事は炭酸ガスの排出や資源量に問題があるとおもわれる。本当に困った事であるが何とか

解決しなければならない。

当面は出来るかぎり安全性を高め、再生エネルギーの進展の様子を見ながら考えるしかないとおもわれる。

■28. 原発反対。

理由：第一にプルトニウムを発見した科学者ですら計り知れないものを生み出したと当時言っている。科学技術においては、人の手に負えない範疇がある場合はまだ研究過程であって実践段階には到底ないと思えるから。

■29. 脱原発依存・・・

原発はなくてはならないもの！と暗示をかけられているだけの気がします。もっと柔軟にいろいろな角度から考えたいです。

そもそも、どこまで便利になればよいのでしょうか？

日本人の平均的な生活を、世界中の人がするためには、地球が2.4個も必要！とのことを聞きました。今の生活は、誰かの・自然の犠牲の上にあることを心したい。

また、便利なことが当たり前！いい事！とされるが、それと引き換えに、自然やその恩恵や人間本来の様々な生きる力やそのために築きあげてきたコミュニティなど・・・、失ってきたものの大きさも考えた上でのエネルギー議論が必要と感じています。

■30. 原発反対・・・特に敦賀の発電所については、事故が発生したら名古屋が壊れる。これからは小さな発電所（自宅内も含め）がいくつもできればいい。

■31. 元々は中間左派(核の地層処分には懐疑的)の立場でしたが、福島原発事故以来、日を追って過激になっています。どうする原発、いろいろな人の意見を訊きたいと思っています。

■32. 今後新しい原発はつくらない。中国電力の上関原発建設などもってのほかであり、直ちに計画を白紙撤回すべきである。推進計画など体を張ってでも止めなければならない。福島第2も直ちに廃炉決定をすべきである。現在稼働中、休止中の原子炉も再生可能エネルギーの発電量が拡大するごとに古いものから順次廃炉にしていくべきと考えている。一日も早く原発のない社会を目指す人々は、現在検討されている再生可能エネルギー全量買い取りの金額に注目すべきである。言うまでもなく、再生可能エネルギーの普及拡大は発電した電気の買取料金が高ければ推進され、低ければ掛け声ばかりに終わってしまうからである。再生可能エネルギーの拡大が進まなければ、産業界や原子力村の人々が原発推進の声をまた高くするだろう。再生エネルギーの普及拡大を進めて、原発のいらぬ社会をつくろう。

私は、処分の方法について国民の合意ができていない使用済み核燃料を考えると、これ以上の原発建設には断固として反対である。もうこれ以上、孫や子孫に負の遺産を押し付けることはできません。

■33. 将来と世界を視野に入れた議論を。

かつて浜岡原発で働いたことがある私にとって、福島原発の事故は痛恨事であり、浜岡原発の全面停止は、それに輪をかけた。原子力発電は、オイルショック後の日本に、エネルギーの供給と価格の安定およびCO2削減で大きな貢献をしてきた。また、私は、被曝国日本での原子力発電所の用地取得がいかに困難であったか、また厳しい世間の目の中での運転の並々ならぬ苦勞も良く知っています。

しかしながら、今回の事故の被害の巨大さとそれが広範な被災地域の人々の人生を変えてしまう有様を見ると、日本は「脱原子力」の方向へ向かうべきだと思う。脱原子力をめぐ

る議論が盛んに行われているが、その中に欠けているものが二つがある。

一つは「日本の将来像」である。総務省統計によると、日本は 2004 年の 128 百万人をピークとして人口減少が進んでいる。2030 年の人口は 115 百万人、2050 年には、95 百万人、65 歳以上の以上の構成率は、40%となっている。それを考えると、GDP 信仰の下で、大量生産・大量消費社会を形成し、輸出至上主義で稼いだお金で世界中から「資源と食糧」をかき集めるやり方は、すでに転換点を迎えている。人口の減少、高齢化につれて、GDP も下がり、エネルギー需要も減少する。経済活動やエネルギーの量的、質的变化はもちろん、社会のあり方や生活様式なども根本的な見直しが必要である。人口減少は、脱原子力に有利な条件である。これからの日本は、自然エネルギーや蓄電技術やスマートグリッドなどのさらなる開発、推進をしなければならない。特に日本の周囲の広大な海の資源開発を含む利用を強力に推進すべきである。そして「脱原子力・脱 GDP の幸せ大国」という先進国モデルを打ち立てよう。

二つ目は、「世界に対する信義」である。今回の大震災にあたって、世界各国や人から実に多くの支援が寄せられた。その世界の最大課題は、「地球温暖化対策」である。地球温暖化は、原子力災害より、はるかに大きな世界的な災害をもたらす。日本は 1997 年の COP3 において議長を務め、利害が絡む各国の意見を調整して、京都議定書に纏めあげた。一昨年、鳩山前首相が、国連において行った、2020 年までに CO2 を 25%削減することを目標に政策を行う」という演説は、膠着した CO2 削減交渉に大きな進展をもたらした。日本は、地球温暖化の世界の動きの節目で大きな貢献をしてきた。

福島原発事故に続き、浜岡原発の全面停止という事態になり、電力不足が明らかになった。電力会社も、政府も国民もその対策として、火力発電所のフル稼働や自家発電のフル活用をもくろみ、その結果としての CO2 の発生にはまったく無頓着ように思われる。それは、自分たちが、原子力災害から逃れる一方、脱原発による社会や生活へのマイナス影響を最小限に抑えるためには、CO2 の大量発生もやむを得ないという自己中の態度である。それは、過去の日本が CO2 に果てしてきた役割を考えると「世界に対する信義」上、許されないのではないかと。

脱原発と CO2 削減の両立という困難な課題に立ち向かわなければならない。日本は今、節電に留まらず省エネの徹底に踏み込まなければならない。

人口減少・自然エネルギー・省エネの三位一体が脱原発のキーワードである。最後に原発を受け入れていただいた地域の方々への十二分の心ある施策を切望する。

■34. 卒原発の立場です。原発は事故により多大な被害をもたらすことは誰しも知ること、その存在が認められるには 100%安全でなければならないと思います。しかし、今後たとえどんなに原発の安全性が高められても科学は万能ではないので 100%安全にはならないでしょう。また、原発には、使用済み核燃料の中間貯蔵施設や最終処分場をどこに建設するか、処分方法は安全か、という問題も抱えており、コスト面でも他の発電方法より優れているとは言えないと思うからです。

■35. 卒原発ですが、すぐにとはいかないと思います。少し現実的に考えています。

■36. コストが安いからといって、危険なエネルギーに依存することに反対と思うから。

■37. 世界の地震の 20%で、大地震の多い日本で、原発を稼働させることは自殺行為だと思います。若狭（15基ある）で地震があれば、大阪、名古屋、関東は人が住めなくなり、日本は終わります。

以上